

実践⑨ 鹿児島市谷山北公民館図書室

1 はじめに

昭和42年合併当時、人口約4万4千人であった谷山地区は、その後の市街地の発展に伴い、平成10年頃には人口15万人を超え、既存の谷山市民会館のほかに新しい公民館を設立してほしい旨の要望が地域住民から出されていた。

その要望を受けて、平成20年10月1日に開館したのが谷山北公民館である。今年は開館12年目であるが、令和2年6月19日には来館者200万人を達成し、図書室の利用者も平成30年9月11日には100万人を超えたところである。年間の利用者が約9万人、蔵書数も5万冊を超えている谷山北公民館図書室は、「きたぼっぼ」の愛称と「読書の風を谷北から」の合言葉で、地域に根差した利用しやすい環境づくりに努めている。

2 子どもの読書活動に関する取組

(1) 定期的な取組

ア きたぼっぼおはなしの時間

毎週水曜日に乳幼児を対象にわらべうたや絵本の読み聞かせを行っている。司書と読書グループ「こだま」を中心として活動を行っている。



イ きたぼっぼ土曜おはなしの時間

毎月第3土曜日に未就学児から小学生を対象にわらべうた遊びや絵本の読み聞かせを行い、終了後に工作等やプレゼント配布も行っている。読書グループ「こだま」を中心に鹿児島市のおはなし会グループも参加している。

ウ ミニおはなし会

第4木曜日の夕方に図書室に来てくれた子どもたちを対象に、司書が15分程度の読み聞かせを行っている。参加した子どもたちには手作りのプレゼントも配布している。

(2) きたぼっぼ子ども読書まつり

7月下旬の土曜日、谷山北地域の読書グループや親子読書会、谷山北中学校生徒等による絵本の読み聞かせやわらべうた遊び、小中学生によるビブリオバトル等を行っている。子どもたちがたくさん参加し、読書の楽しさを味わう機会になっている。



(3) 小中学生のビブリオバトル

「きたぼっぼ子ども読書まつり」に合わせ、子どもたちがゲーム感覚で楽しみながら本に関心をもつことや自ら本を選ぶ力、語る力を育て、より一層読書の推進を図る目的で行っている。



(4) 一日司書体験

夏休みに主として谷山北地域内の小学校高学年児童を対象に、本の貸出や配架などの司書業務の体験を通し、生涯学習施設における図書室の役割を理解させる機会を設けている。

(5) 春・秋のきたぼっぼ読書週間

毎年4・10月の年2回、展示台での読書案内やクイズ、利用者参加型企画等の読書推進イベント等の活動を行っている。また、秋のきたぼっぼ読書週間に合わせて、成人を対象に「ビブリオバトル」も行い、読書意欲の向上を図ると共に利用者の読書環境づくりを促進している。

3 谷山北地域読書グループ連絡会との連携

(1) 目的

地域の読書グループや親子読書会の代表者、谷山北公民館の図書室サポーターを含む読書活動ボランティア等が一堂に会し、幼児・児童生徒の読書活動の進め方について情報交換や研修を深め、谷山北地域における読書活動の更なる充実に資することを目的としている。

(2) 構成

谷山北地域の読書グループや親子読書会、谷山北公民館の図書室サポーターを含む読書ボランティア等をもって構成している。

(3) 内容

ア 読み聞かせや、読書活動等に関する相互の情報交換及び研修に関すること

イ 子ども読書まつりの企画・運営に関すること

(4) 活動の様子

ア 5月：年間の谷山北地域における読書活動計画についての打合せと情報交換を行っている。

イ 2月：読み聞かせ等のスキルアップを目指した講演会の実施をしている。



4 学校と連携した取組

(1) 団体貸出

鹿児島市内で活動する非営利活動団体を対象に、1団体100冊まで貸出を行っている。また、依頼があれば司書が図書を選定の手伝いをしている。

(2) 読み聞かせ出張授業

学校からの依頼によって、司書が出向き読み聞かせ活動等を行っている。

(3) 見学学習・職場体験学習の受入

見学学習では、図書室の案内や読み聞かせ、質問の受付等を行っている。職場体験では、実際に読み聞かせの時間に参加したり、貸出・返却などの簡単な司書業務を体験したりする機会を設けている。



(4) 教職員の地域貢献体験研修等の受入

読み聞かせ活動や貸出・返却などの司書業務を体験し、生涯学習施設における図書室の役割等について理解を深められるようにしている。

5 おわりに

図書室の愛称は、「きたぽっぽ」（公募、小5女兒作）であり、「図書室を利用する皆さんの心が、読書を通してぽっかぽかにあたたまるように」という願いを込めたものである。

また、「北ごろろう」「はな」「ポックさん」「ブックレッシヤー・ポッポーくん」という4つのキャラクターを決め、子どもを含め多くの来室者に親しみをもって利用してもらえるように工夫している。

本年度は、新型コロナウイルスへの対応もあり、例年通りの十分な活動は難しかったが「安心」「安全」面にも十分配慮して可能な活動に精一杯取り組んできた。今後とも愛称・キャラクターの思い、安心して気持ちよく利用していただくことを大事にしながら、子どもの読書への関心・意欲を高めていきたい。